

**JASDAQ**

平成 18 年 4 月 14 日

各 位

会社名 イフジ産業株式会社
代表者名 代表取締役社長 藤井 徳夫
(登録銘柄・コード番号 2924)
問合せ先 常務取締役 経営企画室長
仁田坂 功
電話番号 092-938-4561 (代表)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成17年11月8日付の「平成18年3月期中間決算短信(非連結)」にて公表いたしました平成18年3月期(平成17年4月1日~平成18年3月31日)通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成18年3月期通期業績予想(非連結)の修正(平成17年4月1日~平成18年3月31日)
(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	9,373	220	173
今回修正予想(B)	8,886	173	269
増減額(B-A)	487	47	95
増減率	5.2%	21.5%	
(ご参考)前期実績(平成17年3月期)	8,956	127	127

2. 通期業績予想修正の理由

売上高の修正

当社製品の販売単価については、そのほとんどが日々の鶏卵相場に基づいて決定するのが通常であり、下半期の国内の鶏卵相場が、昨年6月に茨城県で発生した鳥インフルエンザや餌付け羽数の増加等の影響もあり、当社予想よりも低く推移したため、製品の販売単価も低下いたしました。これにより予想売上高を修正いたしました。

経常利益

前期における国内の鶏卵需給逼迫による鶏卵相場の高騰を受けて、当該期も引き続き国内の鶏卵需給はタイトで鶏卵相場も高く推移し、原料調達が厳しいものとなると予想し、海外からの原料調達を行いました。しかし、鳥インフルエンザの影響や餌付け羽数の増加等の影響により、下半期の国内の鶏卵相場が当社予想よりも低く推移いたしました。そのため、契約していた外国産の原料価格が国内産の原料価格よりも大幅に割高なものとなってしまう、原料コストが増加し、予想した経常利益の確保が難しくなり修正することになりました。

当期純利益

経常利益が予想に比べて減少したことに加え、輸入原料卵の規格認識相違を主な原因として、製造工程における異常歩留が発生したため、これを特別損失として30百万円計上することになりました。これらのことにより当期純損失の額が予想より増加することから、予想当期純利益を修正いたしました。

上記の予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき、当社で判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績が記載の予想と大幅に異なる結果となる可能性があります。

以上